

## 第11回国連課題研究会（2025年5月27日）資料1.

### 「未来のための約束」に対する One Young World(OYW) の実践的価値

#### 大久保 公人 One Young World Japan Committee 代表 理事

「未来のための約束(Pact for the Future)」において示した中心的な問いは、**将来世代の声に耳を傾け、現世代が今、責任ある行動をとる必要がある**という認識と捉えます。この実効性のためには、**恐らく構造的な変革・世代間の対話と協働・国際的共創の実装モデル**が必要なのでしょう。

この文脈において、One Young World(OYW)は、国際社会にとって現在、**示唆的なプラットフォーム**であると考えています。One Young World(OYW)は、常に次世代リーダーを中核に据え、彼らのネットワークとコミュニティの形成を支援しながら、“**イノベーション × パッション × アクション**”へと結実させる独自の価値創造モデルを構築してきております。

これは、次世代を「意識ある若者」にとどめるのではなく、**社会を動かす実践的リーダーへと導くためのプラットフォーム**です。

以下に、私自身がこの15年にわたる関与の中で体感してきた、OYWの特筆すべき構造を、8つの視点から整理いたします。

---

#### **1. 思想と実装の多層構造：創設者・カウンセラー・地域リーダーの共創性**

OYWは、創設者の明確な理念、ノーベル賞受賞者や世界的リーダーからなるカウンセラー陣の倫理的視座、そして私自身を含む地域に根ざしたリーダーたちの文化的知見、ヴィジヨナリーと実行力によって構成されています。これにより、思想と実装、

グローバルとローカル、理念と実務が交差する多層的なナレッジ・ヒューマンキャピタルの融合基盤が生まれています。

---

## 2. グローバル・アジェンダへの横断的アプローチ

OYW の最大の特徴の一つは、社会のあらゆる重要テーマ “リーダーシップ、気候危機、教育、ビジネス、平和構築、宗教間対話など” を統合的に扱うグローバル・アジェンダの網羅性にあります。これらは、年次サミットにおける本会議のみならず、分科会、サテライトフォーラム、地域コーカス等を通じ、国境を越えて並行的・継続的に議論と実践が進められている点においても地球規模の活動政策の参考となり得ます。

---

## 3. 若者の心に火を灯す“エクスペリエンスの設計力”

OYW は単なるカンファレンスではなく、参加前から後に至るまでの一貫した“ライフチェンジングの設計”が特徴です。

- **Before:** 企業・教育機関・奨学金等を通じた選抜過程と事前メンタリングにより、内省（イントロスペクション）と志（ビジョン）の醸成。
- **During:** 開会式、プレナリーセッション、ワークショップ、エクスカーション等により五感と知性を刺激する演出が施され、「人生の転機」として記憶される体験を提供。
- **After:** 2 万人を超えるアルムナイ・ネットワークと様々なデジタルプラットフォームによって、プロジェクト連携・メンタリング・再接続が継続的に可能な仕組みが整備。

\* この一貫したフロー設計により、参加者は単なる情報の受け手ではなく、イノベーションやソリューションプロバイダーの当事者としての自覚と行動力を得ます。

---

## 4. ブランディングと共感設計の重要性

OYW は、あらゆる分野やカテゴリーにおけるブランディング、マーケティング、コミュニケーション、クリエイティビティの専門家や経験者がマネージメントチームを形成し、こ

れまでの集大成として、そして、我々に課された使命として、感性・理性・倫理の三軸を通じて価値創造を行っています。OYW への参加した方々は“学ぶ”のではなく、“変わる”という意識に芽生え、結果として社会へと自発的に関与する回路が開かれるのです。

---

## 5. インタージェネレーション × トランスナショナルの融合モデル

190 カ国以上から集う次世代リーダーと、政治・経済・文化・スポーツなど各分野の現役リーダーたちが、世代を超えて対話と協働を実現するのが OYW であり、これは、世代間の断絶や国際的分断を乗り越える「越境的共感」を生む舞台として極めて重要です。

---

## 6.2 万人のアルムナイ × 常時接続のデジタルエコシステム

OYW は単年度で完結するネットワークではありません。常時接続型のプラットフォームによって、帰国後も各地域での連携、プロジェクトの立ち上げ、メンタリングやリソース共有が継続され、一人ひとりが“行動する点”から“つながる線”として動き続けることが可能となっています。

- **多様なバックグラウンド:** ビジネスリーダー、起業家、政策立案者、人権活動家など、さまざまな分野で活躍する若者が参加。
  - **地域別のサポート体制:** 6 つの地域と 24 のサブリージョンに分かれ、各地域のコーディネーティング・アンバサダーがローカルイベントの企画やネットワーキングの促進、メンタリングなどを担当。
  - **持続的なコミュニティ活動:** アンバサダーは生涯にわたって OYW コミュニティの一員として、さまざまなプログラムやイベントに参加し、社会的インパクトを拡大しています。
- 

## 7. Impact Report による可視化と国際的知見の共有

One Young World(OYW)は、毎年発行する Impact Report を通じて、参加者が生み出す具体的な社会的成果(起業、社会事業、政策提言など)を定量・定性の両面から測定・公表しています。このレポートは、将来世代のイノベーションを世界に広く発信するツールであると同時に、他の若者たちへのインスピレーションや資源提供の役割も果たしています。

<https://www.oneyoungworld.com/sites/default/files/2024-04/impact-report.pdf>

---

## 8. 世界初、日本発の実装モデル:

日本は、OYW 唯一の法人格を有する国として、世界に先駆けて**実践的なモデル形成**を行っています。特に、**垂直展開(世代間連携)**と**水平展開(産官学・地域との連携)**を同時に実装する枠組みは、**グローバルにおける先進的なケーススタディ**として注目されています。

- OYW アンバサダー(歴代参加者)や次期候補生、パートナー企業・機関を巻き込むかたちで、東京サテライトフォーラム、Send-Off セッション、Debrief セッションなどを実施。
- 将来の OYW 人材である U18 世代を対象に、新たな育成ブランド「One Junior World」を導入。スプリングキャンプ、グローバル人材育成、ピッチイベントを展開し、福岡県・愛媛県・岐阜県の高校と連携したプログラムを実施。
- 地域自治体との連携例として、長崎市と共催する「ピース・プレナーフォーラム」を展開。
- 大学との連携においては、岡山大学主導の OYW 大学連携ネットワーク形成や、OIST・APU・AIU とのコラボレーションによる実践的キャンプなど、地域と高等教育機関の協働による人材育成を推進。

(了)

---